

令和 6 年 8 月 19 日

課 名 地域政策局

平和推進プロジェクト・チーム

担当者 担当課長(平和推進担当) 山本

内 線 2365

「世界のリーダーと若者の対話 核兵器なき世界への道 広島、そして世界の若者へつなぐ」の開催結果について

1 要旨

核軍縮・不拡散の分野で活躍する世界のリーダーをパネリストに招き「世界のリーダーと若者の対話 核兵器なき世界への道 広島、そして世界の若者へつなぐ」を開催し、広島の若者と「ユース非核リーダー基金」プログラムに参加する世界各地の若者がともに参加し、核兵器のない平和な世界の実現に向けてできることについて、考えを深めた。

2 現状・背景

被爆及び国連創設から 75 年となる 2020 年に、国連機関との共催イベントとして、8 月 6 日に第 1 回を開催。今年で 5 回目となる。

今年 は 2022 年の第 10 回核兵器不拡散条約(NPT)運用検討会議の一般討論演説において岸田首相が発表した「ヒロシマ・アクション・プラン」の一環として創設された「ユース非核リーダー基金」のプログラムと連携し、世界各地から若者がオンラインで参加した。

3 イベント概要

(1) 開催日

令和 6 年 8 月 6 日 (火)

(2) 場 所

エディオンピースウイング広島ラウンジ B
(広島市中区基町 15 番 2-1 号)
※会場での対面参加とオンライン参加の
併用



(3) 実施主体

広島県、へいわ創造機構ひろしま(HOPe)、
国連訓練調査研究所(ユニタール)

(4) 予算(単県)

3, 244 千円(HOPeへの負担金)

(5) 聴講者(会場+オンライン視聴(延べ))

365名

(6) 参加者

ア パネリスト(5名):

(ア) 国連軍縮部

中満 泉 国連事務次長・軍縮担当上級代表

- (イ) ジャマイカ外務貿易省
ショナー-ケイ・リチャーズ ジャマイカ駐日大使
- (ウ) 広島県・へいわ創造機構ひろしま(HOPe)
湯崎 英彦 知事・代表
- (エ) 広島の若者代表
田中 美穂 カクワカ広島共同代表
- (オ) ユース非核リーダー基金プログラム参加者代表
フランコ・エスコバル 広島平和研究所研究員

イ モデレーター：ニキル・セス 国連事務次長補兼ユニタール総代表

(7) 実施内容

ア 主な発言内容

- 中満国連事務次長・軍縮担当上級代表
 - ・Be inclusive。多様な見方があることを理解し、様々な視点から考えることが重要。自分たちの意見はこう、ということで完結すると、たどり着かないところがある。核軍縮対核抑止もそうだが、異なる立場の人と対話をすることで、多様な視点があることを理解できる。
 - ・Be in yourself。自分の持つ力、可能性を信じる力が必要。
 - ・Be bold。社会全体として、リアリストの声が強くなっているときに平和を訴え続けるのは難しいが、自分の信念を伝えなければ、社会が進歩しない。声を上げる勇気を持ってほしい。
 - ・「リアリズム（現実主義）」の視点に加えて「アイデアリズム（理想主義）」、この両方の視座から核兵器がなくとも安全保障ができる世界をいかに築くか。勉強して考えてほしい。
- リチャーズジャマイカ駐日大使
 - ・被爆者視点の人道的な議論を中心に置くことが重要。政治ではなく、被爆者の悲惨な経験や彼らにとって欠かせないものを知ること。TPNW 成立の経験からの学びとして、人々を集めることはより市民を巻き込む大きな力となる。
 - ・アドボカシー活動は大変な時もあるが、課題に対して楽しむことが重要。被爆者からバトンを受け取って、勇気を持って次の世代につないでほしい。希望を持って、あきらめず、自分のできることを自分の場所で。
- 湯崎知事
 - ・広島県の取組を通して、将来を担う若者が平和を希求する志を高め、継続的に発信し、活動に関わり、安心して暮らせる核兵器のない平和な世界の実現に貢献していくことを期待する。
 - ・自分が信じていることに、どれだけコミットして行動するかが重要。核兵器の問題に関して参加している若者の数が少ないと感じている。パンデミックの時期を経て、巨大な組織に若者の連帯が対抗できるようになっている。力を合わせて取り組んでほしい。
- 田中美穂氏
 - ・若者が核軍縮・不拡散の分野に関わるべきだと考える理由の1つに、核兵器が使われた場合若者への被害がより大きくなるということがある。自分たちよりも下の世代に責任を渡さず、自分の世代で責任を果たすためにできること、引き継げることについて考えないといけない。
- フランコ・エスコバル氏

- ・現在、世界では気候変動などの方に興味が向き、核兵器問題は後回しとなっている。
- ・大人にはできないが若者にはできることもある。歴史を見ると若者が世界を変えた例は多い。そのような例を忘れないでほしい。

イ その他

イベントの様子を YouTube 上で配信中。

【参考 URL】

<https://www.youtube.com/live/3RQ0e-cpQT4?si=mD03v6PwGvbs1V20>